

# WORKS

## Empower&Energize

No119

2008/9

名東福祉会は名古屋市と日進市を中心に  
知的障害者を中心とする福祉活動を行っています

## 身辺の自立スキルについて

理事長 加藤久和

身辺自立は重度の知的障害がある人たちにとってたいへん重要なテーマです。ところが最近の福祉施設実践では身辺自立訓練はあまり話題にならなくなっているような気がします。これにはいろいろな理由が考えられます。

まず、近年の障害者自立支援法の影響です。この法により地域生活支援が主要なテーマとなり、施設では主に就労スキルに関心が移っているようです。そのため、専門家の間では本人の社会的スキルや計算や漢字の読みなどアカデミックなスキルの学習が話題に関心が集まっています。

次に本人の身辺自立訓練の訓練履歴です。本人は成人になるまでになんらかの身辺自立訓練を経験しています。成人になってまだ身辺自立を獲得できていないのであれば「もう訓練は十分なのではないか」という考え方も出てきます。

三番目に考えられるのは人の問題。知的障害者施設では年々職員の職場定着率が下がりがつあり、支援者の経験や知識も不足気味になっています。こ

うしたことが体系的で組織的な身辺自立訓練が行われにくいことにつながっているような気がします。でも身辺自立スキルの学習をおろそかにして地域生活は成り立ちにくいと思います。

### なぜ身辺自立訓練は必要か

身辺自立技能が改善することは本人のQOLの改善につながります。

- 1 健康の維持・増進につながります。
- 2 社会参加の機会が改善します。
- 3 介護者の負担が軽減し、本人の生活の拡大につながります。
- 4 本人の自己イメージが向上します。

確かに、昔行われたような「強力な訓練」では今日の課題である「自己決定」や「自己権利擁護」には抵触することもあるのかもしれませんが、また、

重度の知的障害者は多くの場合、手先がうまく動かせません。身体の動きと感覚にも障害があります。また自分の身なりあまり関心が持てないことが多くあります。そうした諸々のことが重なり、支援者が身辺自立訓練をすることを「あきらめ」てしまうことにつながります。現在の福祉施設ではそうした権利ムードやあきらめムードによって「身だしなみ」や「マナー」などの学習機会を設けても意味がないということになってしまっているかもしれません。

せん。

しかし現在ののように地域福祉を重視する時代であるからこそ身辺自立訓練は重要になってきているのでないでしょうか。ただ、身辺自立訓練は時代に合わせた工夫も必要です。

- 1 強力な身辺自立訓練を集中して行うというよりは、日常的に適応行動が維持できるような「環境設定」を大切にしていくこと
- 2 身辺自立に関連して発生する問題行動の分析と適切な軽減方法を整理すること
- 3 家族と生活しているのであれば親と連携すること
- 4 自己決定を尊重すること
- 5 本人が感じている問題から出発して身辺自立技能を学ぶこと
- 6 セルフモニタリング（自分を自分でチェックする）の技能を磨くこと

これらが身辺自立訓練に関する知的障害者施設の今日的な課題であると思われまます。

こうした姿勢で身辺自立を促していくことが、結果として身辺自立の訓練を本人にとって楽しい、有意義なものにしていきます。

### 身辺自立の領域

- 身辺自立訓練の領域には
- 1 食べること

- 2 排泄
- 3 衣服の着脱
- 4 衛生

などがあります。これを目標を持ち、毎日繰り返し行うことが自立訓練の基本です。

この中でも「食をすること」は生命の維持にとって欠くことのできないことであり、「生」の質を高めるために最も簡明で最も重要な領域です。

●ともに生活する仲間であることを幸せに思う時間

●深い満足とリラクセスができる時間

●ゆたかなコミュニケーションをもたらす時間

●自分をポジティブに受け入れることができる時間

●全ての感覚を豊かにすることができると時間

●成長と健康に必要な栄養を摂取できる時間

食の身辺自立訓練はそうした食の時間が本人にもたらされるような場であればなりません。その上で食の身辺自立のためにどのような課題があるのかをタスクアナリシス（課題分析）します。

## タスクアナリシス

利用者の障害の程度はひとりひとり異なります。眼球のコントロール、首

のすわり、四肢のコントロール、座位がとれるかどうかなどから始まり、口腔のコントロール、かじりとり、租借、嚥下、食器をどのように持つか、食器をうまく使ってどうやって口に運ぶかなど食をすることに閉じてだけみても、いくつもの行動がまとまって「食」となります。心の中で「おいしそうだ！食をろぞ！」と考えることも広い意味で行動といえます。このように身辺自立の訓練は目的の行動がどのように成り立っているのかを考えることが出発点となります。これがタスクアナリシスです。

身辺自立訓練はひとりひとりの利用者の現在の状況に合わせてタスクアナリシスを行い、オーダーメイドでプログラムを造ります。もちろん無駄なこととは大胆に省き、車椅子や食器の工夫など行動を獲得するよりも適切な器具を適応する方がいいかを判断することもタスクアナリシスに含まれます。

食の身辺自立の課題を達成するためには多様な領域との連携が必要になります。支援スタッフだけのミーティングで訓練内容を決めるよりも、他領域のスタッフと連携すると問題の解決が早くなるということがあります。例えば食事の内容を本人に合わせた内容にしたり、食器やテーブルを本人に合わせてたりできます。

衛生には風呂、シャワー、歯磨き、手洗い、髭剃り、髪の毛を整えること、生理の手当て、化粧など多くの下位領域があります。直接健康に関連するものや「心の健康」に関連するものがあります。現実には一般の人々に受け入れられるかどうかに密接に関連する要素でもあり、本人の自立度に強く影響します。

特に生理の手当てと歯科衛生については重度障害がある場合には行動を確立することが重要となります。これらはなかなか公的な資料となりにくい部分でもあり、各施設独自の手法となっている場合が多く、標準化が遅れている領域です。また、施設の建築学的な差異も実践に大きく影響します。そのため福祉協会の実践報告についてあまり取り上げられることがありません。

できあがった身辺自立訓練のフォーマットは他の利用者にも応用が効くものです。ひとつの実践についてしっかりとした成果をあげ、その経過を共有することによって組織としての暗黙知と形式知を蓄積することができます。

## 専門施設との連携

身辺自立スキルの獲得へ向けた基本的な方略は実はそれほど多くあるわけではありません。

- 1 最初は介護者が手を添えるなどのガイダンスを行い次第にガイダンスを少なくしていく方法

- 2 大きな「手がかり」から、次第に「小さな手がかり」に変えて行き、最後は手がかり無しでできるようにする方法

- 3 行動の連鎖を形成すること

など、身辺自立の訓練では行動療法で開発された方法が有効です。

成人施設の場合、食事、衣服の着脱、排泄、衛生など多様な領域の多様な行動を、できるだけ自然な環境の中で学習することが求められます。また、訓練のプロセスそのものが本人にとって楽しいものであり、改善した結果によってより多くの人たちから賞賛を受けるような生活環境をつくるのが大切です。であるからこそ、訓練に先立ち本人の状況と支援者の状況、環境をアセスメントをすることが重要となります。

名東福祉会では行動療育センター「たけのこの家」があります。この施設では金沢大学名誉教授、中京大学名誉教授の久野能弘先生を中心に臨床スタッフが行動療法を実践していて名東福祉会の介護・支援スタッフの実践理論のバックボーンとなっています。また、実践に関しても各施設の利用者の問題行動への対応についても行動療育センターのスタッフが側面から支援し

ていく仕組みができてつづつあります。

久野先生は日本を代表する臨床家で  
す。昨年とても大きな手術をされたの  
で負担をかけてしまうのは心苦しい  
のですが、名東福祉会のスタッフだけ  
ではなく愛知県の知的障害者支援ス  
タッフに講話をしていただければと思  
います。

今後は名東福祉会の身辺自立支援に  
関する施設実践が報告できるとよいと  
願っています。ひいては専門スタッフ、  
施設スタッフ、知的障害者の家族が連  
携して本人のQOLが向上にむけて目  
標を共有できればと願っています。

## 奈々枝日記

暑中お見舞い申し上げます。

毎日たいへんな暑さが続いています  
が、皆さん体調はいかがでしょう？  
私は、実は皆さんから傘寿のお祝いを  
していただく数日前から体調をこわし  
ていました。せきが出て、多分クーラー  
のあたりすぎによる風邪の状態で、愛  
知医大でレントゲンをとって頂いたと  
ころ、私自身もびつくりするほど肺の  
ほとんどが網の目のような白っぽさで  
映し出されていました。

即入院と先生に告げられて私は一瞬

たじろぎましたが、すぐに

「コロニーの息子が夏休みで帰ってき  
ますので、入院しておられませんか。」  
と言いました。言っている自分がいや  
になるほどおかし言葉だと自分で悲  
しくなり、ショボンとしてしていると、先  
生は  
「この2〜3日しっかり寝て下さい  
よ。」

「息子さんのことはわかるけど、貴女  
の体が丈夫であつてこそですからね」  
と念を押されました。まったく先生の  
おっしゃるとおりで、「いつ死んでもい  
い」と常日ごろから豪語していた自分  
の浅はかさを悲しく思いました。

時も時、利用者さんのお母様が肺が  
んでお亡くなりになり、今後どうする  
のが福祉会の中で検討されました。  
これからドンドン出てくる課題です。  
レジデンス日進を建設したものの定員  
という枠があり、これでいいというは  
ずはなかったのです。そして、ケアホー  
ムももうじき建ちますがたが10名  
です。「地域に生きる」といっても、  
地域の中で今まで通っていた作業所す  
ら通いにくい現実が目の前に出てきま  
した。

親も子も生まれてきた自分の人生を  
より輝かしい終末にしたいとみんな  
思っているのですが、私自身ももう一  
度深く掘り下げて考えねならないと思

いました。

おかげさまで、名東福祉会の嘱託医  
の福嶋先生がいろいろと気遣ってくだ  
さつて、このところもちなおし、私は  
少し元気が出てまいりました。すると、  
ムクムクと今後のことが考えられ、ど  
こかへすつ飛んで行きそうですが、「待  
て待て」と自制しているところです。  
気遣ってくださいた方々に申し訳ない  
ことはいたしません。

## 小島一郎の支援セン ター日記

猛暑である。名古屋ではまとまった  
雨が久しく降っていない気がするが、  
お隣の岐阜や三重では警報が出るほど  
であったり、首都圏ではゲリラ豪雨で  
人命が失われたりと大変なようであ  
る。

お盆ということで、名東福祉会の各  
通所施設も13日から夏季休暇に入っ  
ている。土日も入れて5日間の休みを  
長く思う人、物足りない人、様々であ  
ろう。支援Cの方は、地域の相談者の  
関係もあり、お盆も開業することにし  
ている。職員は交替で休暇をとるのだ  
が、これが結構大変。私は先陣を切っ  
て休みをいただいたのであるが、休む

ために仕事を片付けなければならず、  
直前の数日間はかなり慌しかった。ス  
タッフのYさんなどは、退院者の在宅  
支援体制に予想以上に手間取り、予定  
していた休暇が白紙に戻ってしまおう  
という、非常に申し訳ない結果となつて  
いる。痰吸引も必要な、医療との連携  
が必須のケースであるが、家族の言動  
が二転三転して、Yさんのみならず、  
関係している病院のワーカーさんなど  
も振り回されつ放しらしい。支援Cは  
チーム対応を心がけ、情報共有もして  
いるのであるが、マネジメントが山場  
を迎えているようなときだと、別の人  
間が替わるということは、やはりしづ  
らい。まして新規ケースなので尚更で  
ある。このまま月末に突入すると来月  
のケア調整が始まってしまうため、Y  
さんの休暇は9月にずれ込むことは確  
実。これでは、お盆もお彼岸も一緒く  
たである。

来月には、協議会で今年度2回目の  
研修会を開催する。これは「支援者の  
メンタルヘルス〜生き生きと仕事をす  
るために自分自身でできること〜」と  
題して、愛知県立大学の長谷川先生を  
お招きし、地域で活躍する福祉・介護  
職の心の健康を応援しようというも  
の。打ち合わせ段階から「わかち合  
い」というキーワードも登場している。  
せっかくの機会であるため、今回は区

内の障害福祉分野に留めず、介護保険事業者や名古屋市全区の協議会を通じて開催案内を行っており、反応が楽しみでもある。

もちろん、ウチの支援Cとしては、他領域や他区の事業所のメンタルヘルスマもさることながら、Yさんの夏季休暇を確保することが先決なのであるが・・・

## 恐るべし!! 認定調査

認定調査のことは、ときどきここで触れているが、今回は時間について。

経験的に認定調査の聞き取りは、だいたい1時間〜1時間半くらい。2時間だと、結構長い。基本的にお宅にお邪魔して行うから、移動時間も含めると、2時間前後といったところであろう。午前中の調査で、10時くらいに出してお昼後に帰って来る、午後だと、1時くらいに出て3時くらいに帰って来るイメージである。ところが、ときどき、「一体どうしたんだ?」というくらい長くかかる時があり、残っている方が心配になることがある。ちなみに、今までの記録は、Yさんの5時間。ついこの間、Yくんがそれに継ぐ4時間半を記録(?)した。どちらも、ご家族がよくしゃべる方だったらしい。ただ、Yくんの方は、話し上手・聞き上手のご家族による、純粹に長い

調査ということであったが、Yさんはちよつと変わっている。調査はずつと早めに終わったようであるが、その後雑談から、何故だかご家族の楽器演奏披露となったようで、5時間のうち3時間くらいは演奏を聞いていたとのこと。午後6時を過ぎたので、携帯に電話したがつながらず、仕方なく調査対象者のお宅に電話してみたのであるが、まだつき合わせているYさんの目の前で、そのご家族は「もうお帰りになりました!」ここまでくると監禁である。

余談であるが、自宅でオリンピックを観ていた長男の背後から、ドラゴンスリーパー(首と腕関節を同時にきめるプロレス技)を試みたところ、瞬時に返されて柔道の寝技に持っていかれてしまった。自分の両足を相手の片足に巻きつけて、「待った」に逃げようと思ったが、それも読まれて、逆に両足ともロックされ、文字通り身動きできなくなり・・・タップして許してもらった。

腕相撲では、まだ私の方が強いのであるが、全身の力は叶わないことを知った。考えてみたら、身長も知らぬ間に抜かれている。カミさんが、妙に大喜びであった。

## ご寄付ありがとうございます

平成20年7月26日～8月25日

児童行動療育センター	メイトウ・ワークス	はまなす
神邊巖様	大原誠様	佐知輝敏様
		加島美奈様
レジデンス日進	天白ワークス	牧公三様
レジデンス日進家族会様	鈴木淳様	後藤良昭様

- 社会福祉法人 名東福祉会  
〒470-0124 愛知県日進市浅田町上納58-4  
TEL 052(805)1003 FAX 052(805)1004
- メイトウ・ワークス  
〒465-0055 名古屋市名東区勢子坊2-1303  
TEL 052(702)2863 FAX 052(701)2079
- 天白ワークス  
〒468-0023 名古屋市天白区御前場町327  
TEL 052(804)5487 FAX 052(804)5416
- デイケア はまなす  
〒465-0054 名古屋市名東区高針台1-911  
TEL 052(704)7551 FAX 052(704)7552

- レジデンス日進・ハートフルアクト日進  
〒470-0124 愛知県日進市浅田町上納58-4  
TEL 052(805)1003 FAX 052(805)1004
- 天白ホーム  
〒468-0021 名古屋市天白区平針字大根ヶ越141-3  
TEL 052(807)1578 FAX 052(807)1578
- 児童行動療育センター「たけのこの家」  
〒470-0124 愛知県日進市浅田町上の山14番3  
TEL 052-800-2203 FAX 052-880-2204
- メイ・グリーン  
〒470-0124 日進市浅田町平池112-3

ホームページアドレス <http://www.meito.or.jp>